

梨と笑いを武器に、人や地域に元気を届ける存在へ

芸人・MC・梨農家

なかむら けいのすけ

中村 圭之介 さん (38歳)

堤出身。昔からお笑い番組が好きで、つらいときにも「お笑い」に元気をもらってきたことから、大学卒業を機にお笑いの世界へ。大手芸能事務所を退所後も、独演会やトークライブ、本の執筆など、さまざまな活動を行ってきた。今年7月、実家「中村梨園」の存続・発展を目指し、東京から小林市へリターン。

自慢の梨を両手に、梨園の写真があしらわれたスーツに身を包む。中村圭之介さんは、元お笑い芸人で梨農家という一風変わった経歴の持ち主だ。

大阪や東京を拠点にお笑い芸人として約10年間活動。引退後も新たにコンビを結成してのお笑い賞レースへの挑戦や独演会の開催、本の執筆など幅広い活動を続けてきた。

梨農家になることを考える契機は、妻（中村）さんが初めて実家の梨を食べた際の「こんなおいしい梨を食べたことがない」という言葉。SNSを通じて梨を買ってくれた大阪・東京時代の友人・知人からも同様の言葉が届き、「うちの梨ってそんなにおいしいんだ」と驚いた中村さん。両親の代で梨園がなくなってしまうと危機感を覚えた。

その後、コンビ解散や母親が亡くなったことなどがきっかけで決意を固め、今年7月に夫婦で小林市へ移住。現在は、草刈りなどの梨園の管理や収穫作業を手伝いながら、SNSでの梨の注文販売や作業風景の配信も

行っている。最近では、SNSを見た友人・知人以外の人からの梨の注文も増えてきた。

「小林から全国各地に縁が広がっていくことが不思議な感覚。しっかりとやらないといけないと、背筋が伸びる思いです」。

お笑いの世界での挫折を味わいながらも、独演会やトークライブなどで人を楽しませてきた中村さん。「楽しいこと、笑っていられることが大事。大変なことやつらいことも含めて楽しめれば、気持ちも足取りも軽くなる」と、挑戦を続けてきた。

「小林は面白い人がたくさんいる元気なまち。自分もそこに加わって、一緒に地域を元気にしたい」と、地域を盛り上げる活動も始まっている。これまでの経験を生かし、市内で開催されるイベントで司会を務めることが決まっている。

「圭ちゃんがいるなら」、「圭ちゃんが来てくれた」と喜ばれたり、元気になってもらえるような人になりたい」と話す中村さんは、これからも梨と「笑い」で笑顔を届ける。

中村さんの曾祖父の代から続く中村梨園では、現在豊水・幸水・新高・新興の4品種を栽培。「いずれはもっと規模を拡大したい」と意気込む

「人との出会いに恵まれてきた」と中村さん。集大成として昨年開催した独演会には多くの人が集まり、築いてきたつながりを再確認した会となった

小林人

こばやしびと
Vol.124

